

C) 承認に伴う偏見(差異を承認することによる逆差別)

- 多様性を推進する活動が必要(ストレングスの視点)
- 困った人を助けてあげるのではなく、誰にとっても住みやすい社会づくり、地域づくりを一緒にするという視点=「誰もが貢献したくなる社会」「一人ひとりが主人公の社会」

2. ボランティアという波

◆NPO 法人 M-CAN の主な事業と活動内容

- 住民参加型サービス(まちかどデイハウス、配食サービス、親子のつどいの広場)
- 地域のセーフティネット形成(民生委員による見守り訪問活動の組織化と CSW・専門機関による連携)
- まちづくりの拠点(駄菓子倶楽部みかん屋)

◆実践事例1: インターネットラジオの軌跡

<はじまり>

セネガル出身の男性 A さん。30代。日本人の女性と結婚し、子どもが2人いる。
 いろいろと仕事をしてきたが、定職に就くことがなく、求職活動中。
 識字教室で日本語を勉強している。

援助の対象者としてみると
 外国人、日本語が苦手、日本の環境に慣れていない(不満を抱えている)
 ↓
 視点を変えると(ストレングス視点)
 フランス語が得意、ヒップホップを歌うことが得意、たくさんの人が集まる環境が好き

- インターネットラジオという媒体を通して、Aさんの活躍の場を提供。
- Aさんが社会に貢献できるように、生きがいをもてるように、自尊心をもてるように。

<次のステップ>

そんな折、CSWが地域の民生委員さんと見守り訪問をしていたら…

82歳のBさん(女性)がフランス語を勉強しているときく。

- インターネットラジオを手伝ってほしいとお願いする。
- 社会(Aさんやリスナー)に貢献してほしい。
- 見守られる存在から自ら参加する存在へ。人を支援する存在へ。自尊心を抱けるように。

<現在>

ウェブ制作会社を経営する C さんの登場

自称「アスペルガー&ひきこもり」D さんの登場

D さんがボランティアとして来た初日の駄菓子屋での会話

D くん「僕はアスペルガー症候群で人と接するのが苦手なんです。高校を中退して、その後大検を受けて大学いったんですけど、卒業後も仕事に就く自信がないんです…」

C さん「へー、すごいなあ。俺なんか高校中退して、自分で会社立ち上げて今までやってきてるんだから、D くんだって全然大丈夫だよ。」

3. ニーズに柔軟な組織運営

◆組織変容のかたち

- ニューヨーク市のある移民グループの組織変容
- NPO 法人 M-CAN の組織変容
- ある社会福祉法人の取り組み
→いかに「なぎさ」を形成するか

◆組織変革の形態

組織とは社会的・政治的な状況に対応しながら変革するもの

→パウエル (Powell) とフライドキン (Friedkin) による非営利団体の組織変革の分析

- 「内部状態 (internal condition)」
- 「資源開発 (resource development)」
- 「制度モデル (institutional model)」

Powell, W.W. & Friedkin, R. (1987). Organizational Change in Nonprofit Organizations, In Walter W. Powell (Ed.), *The Nonprofit Sector: A Research Handbook*, Yale University Press, 180-192.